

日本におけるベンチャーファイナンスのあり方

ベンチャー企業は今後の日本経済の発展に必要不可欠である。海外ではベンチャー企業が成長していくためのシステムが整っており、経済の活性化の一翼を担っている。その反面、日本では「資金調達」「出口戦略」等、ベンチャーファイナンスの分野が未発達である。ベンチャーファイナンスの現状や課題について分析し、より良いものにするための具体的方策について議論して欲しい。

【論点 1】：ベンチャー企業の資金調達の現状と課題

ベンチャー企業の資金調達方法は多岐にわたる。そこで、ベンチャー企業の資金調達方法を整理し、それぞれの現状を整理していただきたい。そのうえでどのような課題が存在するのか見極めてほしい。

【論点 2】：非上場株式のセカンダリーマーケット

アメリカにおいて、非上場株式のセカンダリーマーケットでの取引量は増加しており、日本においても環境整備が進められている。海外のそれと比較したうえで、現状・課題を整理し、日本でそれが発展した際の効果や可能性を考察してほしい。

【論点 3】：出口戦略における現状と課題

出資者がベンチャー企業へ出資する目的も多岐にわたるが、それらのほとんどは出口での利益獲得を期待している。出口戦略における現状と課題を企業側、出資者側双方の視点から見極めてほしい。

【論点 4】：望ましいベンチャーファイナンスに向けた具体的方策

これまでの現状・課題を踏まえ、具体的な提案を行ってほしい。その際、日本における望ましいベンチャーファイナンスの定義付けもすること。

【留意点 1】：成長段階に応じること

ベンチャー企業には様々な成長段階があり、それぞれの成長段階によって、現状や課題、資金調達方法は異なる場合がある。そのため各成長段階に分けた分析を行ってほしい。

【留意点 2】：ステークホルダー

ベンチャー企業は、成長するにつれて様々なステークホルダーを有していく。そのため、ベンチャー企業から見た視点だけでなく、起業家や出資者など様々な視点を持って論文を書いてほしい。

※補足説明

- ・ベンチャー企業の定義は「新しい技術、新しいビジネスモデルを中核とする新規事業に

より、急速な成長を目指す新興企業」とすること。

・どのような出口戦略を取るかは企業ごとに異なる。そのため IPO すべき、M&A すべき、といった結論や討論は控えていただきたい。

・論点 4 の提言に関して、出口戦略後に対するものは避けていただきたい。